

令和2年度 厚生労働科学研究費 労働安全衛生総合研究事業

中小企業等における治療と仕事の両立支援の取り組み促進の  
ための研究(19JA0401)

## 分担報告書

「治療と仕事の両立支援」に資する大学病院モデルの構築

研究分担者 白土 博樹

令和2年度 厚生労働科学研究費補助金(労働安全衛生総合研究事業)

分担研究報告書

## 「治療と仕事の両立支援」に資する大学病院モデルの構築

研究分担者 白土博樹（北海道大学医学研究院連携研究センター 療養・就労両立医学分野 療養・就労両立医学教室・教授）

### 研究要旨

「病気の治療と仕事の両立支援（両立支援）」のために、①大学などの医育機関の教育研究体制の整備、②大学病院等主たる医育機関の診療体制の整備、③産業医がいない中小企業等に関する知識の整理と対応法の検討、④ 病院から患者への情報提供プロセスの院内周知を行う方法の整備、を行った。

① 大学などの医育機関の教育研究体制の整備：令和2年4月1日より、北海道大学医学研究院連携研究センターに療養・就労両立医学分野を立ち上げ、臨床医学系および基礎医学系 13 教室の協力を得て連携研究を行うための新体制を整備した。COVID-19 のパンデミックのため、分野内のメーリングリストを利用して、がん治療の経済毒性に関する情報交換を行い、各構成員の治療と仕事の両立支援への理解を深めた。

② 大学病院等主たる医育機関の診療体制の整備：令和2年4月1日より、北海道大学病院腫瘍センターに、医師、看護師、社会福祉士からなる治療と仕事の両立支援外来を立ち上げ、各診療科からの依頼や各診療科を跨いでの両立支援を行うための新体制を整備し、実際に療養・就労両立支援指導が開始された。

③ 産業医がいない中小企業等に関する知識の整理と対応法の検討：安全衛生担当者に関する知識を整理し、患者の問診表に事業所の人数記載欄を改善し、より広く両立支援が可能となるような対応法を導入した。北海道大学主催の日本放射線腫瘍学会にて、治療と仕事の両立のシンポジウムを行い、北大病院腫瘍センターセミナー講習会にて安全衛生担当者の指定を強調して講演した。

④ 病院から患者への情報提供プロセスの院内周知を行う方法の整備：病院情報システム（電子カルテ）を改良し、両立支援に必要な書式での意見書作成を可能とした。

### 研究協力者

篠原信雄（北海道大学大学院医学研究院 腎泌尿器科教室・教授）

青山英史（北海道大学大学院医学研究院 放射線治療学教室・教授）

## A. 目的

「病気の治療と仕事の両立支援(両立支援)」のために、医療機関側が患者からの就労情報を的確に聞き出すことが重要である。それにより、両立支援に当たって医療機関側は、事業所の産業医等から、患者の就労状況を的確に把握して、就労の可否や復職の条件等を判断することが可能となる。

しかし、従来の医師は両立支援に関して大学にて十分な教育を受けておらず、卒後研修でも、就労支援に関するトレーニングを受けることもなかった。産業医がいないことも多い中小企業の場合には、事業所側と医療機関との両立支援に関する配慮はさらに難しく、患者への支援体制が弱い状況にある。

そこで、昨年度は、既存の文献検索をもとに、大学病院、医育機関、研究機関側の体制整備のための準備を行った。今年度の目標は、それらを実際に整備し、運用を開始することである。そして、本研究の最終目標では、我が国の「がん治療ガイドラインに、両立支援へ配慮することを盛り込む」ことを、本分担任研究のビジョンとした。

## B. 方法

昨年度掲げたビジョンのもと、以下の4つのミッションに関して、それぞれ研究を開始した。①大学などの医育機関の教育研究体制の整備、②大学病院等主たる医育機関の診療体制の整備、③治療に関わる医学界の意識の改革、④病院から患者への情報提供方法の課題抽出と対策の考案とした。

## C. 結果

### 1. 大学などの医育機関の教育研究体制の整備

令和2年4月1日より、北海道大学医学研究院連携研究院連携研究センターに「療養・就労両立医学分野」を立ち上げ、研究分担者自らが「療養・就労両立医学教室」を医学研究院内に立ち上げた(図1)。臨床医学系および基礎医学系13教室の協力を得て、連携研究を行うための新体制が整備された。COVID-19のパンデミックのため、分野内のメーリングリストを利用して、がん治療の経済毒性に関する情報交換を行い、各構成員の治療と仕事の両立支援への理解を深めた。

### 2. 大学病院等主たる医育機関の診療体制

令和2年4月1日より北海道大学病院腫瘍センターに、治療と仕事の両立支援チームを立ち上げ、両立支援外来を行うための新体制を整備し、実際に療養・就労両立支援指導が開始された(図2)。COVID-19禍のため、積極的な紹介ができず、実際に両立支援指導を行ったのは年間6名(血液内科4、腫瘍内科1、呼吸器内科1)であった。

### 3. 治療に関わる医学界の意識

①中小企業等に関する知識を整理し、それに対する対応法をし、産業医がいない場合でも安全衛生担当者により両立支援が可能となる点を活用することが重要と判断した。患者の問診表に事業所の人数記載欄を改善し、より

広く両立支援が可能となるような対応法を導入した。

②北海道大学主催の第日本放射線腫瘍学会 33 回学術集会(R2.10 月)にて、治療と仕事の両立のシンポジウムを行い、厚労省・産業医大・患者団体等の講演に加えて、研究分担者自らが登壇し、中小企業への対応策の重要性を強調し、放射線治療関係医師・看護師らの意識を高めた。同シンポジウムは、ウェブ上でオンデマンドにて学会参加者は R3.3.31 まで視聴可能とし、多数の視聴者を得た。(図 3)

③北大病院腫瘍センターセミナー講習会(R3.2 月)にて安全衛生担当者の指定を強調して講演した。聴衆の中から安全衛生担当者の資格取得を目指すことにしたという方からのメールがあった。(図 4)

④ 公益財団法人(内閣府所管)札幌がんセミナーの発行する THE WAY FORWARD に「治療と仕事の両立」を寄稿した。(図 5)

#### 4. 病院から患者への情報提供方法

看護師・MSW と医療情報部と連携して、病院から患者への情報提供プロセスの院内周知を行う方法の整備をした。病院情報システム(電子カルテ)を改良し、医師が、両立支援に必要な書式での意見書作成を電子カルテ上で行うための画面を構築した。また、両立支援を行った患者のデータベースを構築し、MSW が病院情報システムに、病院情報端末から同データベースへの入力が可能になった(表 1)。

#### E. 結論

治療と仕事の両立支援について、小規模事業場の特徴をふまえ、医科大学での教育、大学病院などでの題を抽出し、それに対する対策を実際に開始することができた。次年度は、同取組を若手医師に教育し、さらにその普及に努めることとしたい。

#### F. 学術大会の開催

1. シンポジウム 5「がん患者と治療の両立支援「放射線治療が期待されていること」(オーガナイザー:立石清一郎、白土博樹)を日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会(大会長 白土博樹). 2020.10.1-3. 札幌(web 開催)にて、開催。

#### G. 学会発表

1. 白土博樹. がん治療と仕事の両立—放射線治療医が期待去れていること. シンポジウム 5「がん患者と治療の両立支援「放射線治療が期待されていること」日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会. 2020.10.1-3. 札幌(web 開催)
2. 岩崎由加子、白土博樹、青山英史、立石清一郎、高橋健夫、茂松直之. がん放射線治療における仕事ととの両立に関する全国施設アンケート調査結果. 日本放射線腫瘍学会第 33 回学術大会. 2020.10.1-3. 札幌(web 開催)
3. 白土博樹、石岡明子、渋谷麻実. 医療の経済毒性と「治療と仕事の両立. 2020 年度第 8 回北海道大学病

院腫瘍センターセミナー. R3. 2.19.  
札幌 (web 開催) (図 4)

## H. 論文業績

1. 白土博樹. 治療と仕事の両立.  
「「がん」で苦しむ人を 1 人でも減ら  
したい」. 2. がんの治療. THE WAY  
FORWARD. No. 18. 2020. 12. 1. ISSN  
2187-3127. (図 5)

## I. 研究に関連した実務活動

- ① 令和 2 年 4 月 1 日より、北海道大

(参考資料)

図 1. 北海道大学大学院医学研究院連携研究センターHP より

療養・就労両立医学分野

病気の治療と仕事の両立の支援に関する研究を行っている研究分野です。

- ▶ 放射線治療学教室
- ▶ 血液内科学教室
- ▶ 腫瘍内科学教室
- ▶ 小児科学教室
- ▶ 産婦人科学教室
- ▶ 腎泌尿器外科学教室
- ▶ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
- ▶ 整形外科学教室
- ▶ 公衆衛生学教室
- ▶ 神経薬理学教室
- ▶ 療養・就労両立医学教室
- ▶ 病院腫瘍センター
- ▶ 病院乳腺外科
- ▶ 病院リハビリテーション科

図2. 北海道大学病院腫瘍センターHPより

北海道大学病院  
腫瘍センター

お知らせ 患者さんへ 医療関係者の方へ 腫瘍センターについて

検索

診療支援部会

- 1.化学療法部
- 2.緩和ケアセンター
- 3.小児・AYA世代がんセンター
- 4.放射線治療チーム
- 5.がんゲノム医療・遺伝カウンセリングチーム
- 6.治療と仕事の両立支援チーム

トップページ 腫瘍センターについて 診療支援部会

## 6.治療と仕事の両立支援チーム

治療と仕事の両立支援チームは、がん患者さんの就労に関する相談支援、および治療と仕事の両立支援に関わります。

がんは、広い世代にわたり発症し、多くの診療科にまたがって診断・治療が行われるという特徴があります。がんを発症した場合には、お仕事を継続してよいのか、休止すべきなのか、いつ復職してよいのかなど、いろいろな心配になるはずですが、一方で、がんの治癒率が高まり、70歳定年が叫ばれる今、がん治療と仕事等との両立は、すべての患者さんにとっても、わが国の発展にとっても、非常に重要なことです。

両立支援の仕方は、がんの種類にかかわらず共通点が多いため、2020年4月1日、腫瘍センター内に治療と仕事の両立支援チームを立ち上げました。

具体的には、両立支援担当の医師と両立支援コーディネーターの研修を受講した看護師・社会福祉士が、主治医や会社の方からの情報をもとに治療計画への助言や両立・復職に向けた助言を行います。

がん治療の専門医等が、治療中にお仕事をする上で配慮してほしいことを会社の方に伝えたり、お仕事との両立を配慮して治療計画を立てるために、主治医に情報提供したりします。

### チーム構成

治療と仕事の両立支援には、がん治療の経験の豊富な医師、看護師や社会保険労務士を含む多職種のスタッフがそれぞれの専門的なスキルを活かしながらチームとして取り組むことが、効率的です。腫瘍センターでは、がん相談支援センターのスタッフを軸として、各診療科等と連携し、患者さんやご家族の支援、会社との体制を構築しています。当チームは、以下のコア・メンバーと、各診療科等医師・看護師・他職員が協力・連携しながら、チーム医療を行っています。

- 1.リーダー 医師 (兼: 医学研究院 療養・就労両立医学分野)
- 2.副リーダー 医師 (兼: 医学研究院 療養・就労両立医学分野)
- 3.副リーダー 看護師長
- 4.両立支援コーディネーター 看護師
- 5.両立支援コーディネーター 社会福祉士 3名

図3. 放射線腫瘍学会第33回学術大会でのシンポジウム

シンポジウム5 「がん患者と治療の両立支援「放射線治療医が期待されていること」				
開催形式 : オンデマンド (音声付画像) 配信				
オーガナイザー : 白土 博樹 先生 / 立石 清一郎 先生				
発表順	演題名	氏名	ご所属	発表時間
1	産業医科大学病院におけるがん患者の治療と仕事の両立支援	尾辻 豊 先生	産業医科大学第2内科学	15分
2	治療と仕事の両立支援 最近の動向	井内 努 先生	厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課	20分
3	Covit19時代の新しい両立支援に求められるもの	桜井 なおみ 先生	がんサー・ソリューションズ株式会社	20分
4	がん治療と仕事の両立支援—放射線治療医が期待されていること	白土 博樹 先生	北海道大学大学院医学研究院	20分
5	がん患者と治療の両立支援「放射線治療医が期待されていること」(事業者の立場から)	浅野 健一郎 先生	株式会社フジクラ健康社会研究所	20分
6	「患者=社員」、「病院・主治医」、「職場・産業界」の連携を目指して	原 俊之 先生	北海道労働保健管理協会	20分

図4. 北海道大学病院腫瘍センターセミナー

2020年度 第8回 北海道大学病院 腫瘍センターセミナー  
2021年2月19日(金) 17:30-18:30


**医療の経済毒性と「治療と仕事の両立」**

北海道大学病院 腫瘍センター 治療と仕事の両立支援グループ

北海道大学大学院医学研究院 療養・就労両立医学教室 教授 白土 博樹  
がん相談支援センター 看護師 石岡 明子  
がん相談支援センター MSW 渋谷 麻美

1. 5月から始まった本院腫瘍センターでの「治療と仕事の両立支援」の活用法の例示  
2. 北大病院での「療養・就労両立支援指導」の仕方(「意見書」の書き方マニュアル配布)  
3. 最近話題の「治療の経済毒性の指標COST」を用いた臨床研究の仕方(プロトコルひな型配布)

\*本講演会は、医療従事者を対象に、Webにて開催いたします。  
参加希望の方は、URLまたはQRコードより、事前登録をお願いいたします。【2/16㍻切】  
<https://forms.gle/aVvCabYczGRChNYC7>



## 図5. THE WAY FORWARD 寄稿文

### 治療と仕事の両立

**Q** 全国的にがん治療と仕事の両立支援についての関心が高まってきています。各地のがん拠点病院のなかで対応が進みつつあると思いますが、大学病院でもそういうものを作る動きが出てきました。北海道大学ではさらに、最近、教育研究施設に療養・就労両立教室というものが出来たと聞いております。大学病院や医学部・大学院にまでそのようなものを作る意図はということなのでしょうか？

**A** だれでも、がんを発症した場合には、仕事を継続してよいのか、休止すべきなのか、いつ復職してよいのかなど、いろいろ心配になるはずです。一方で、がんの治癒率が高まり、70歳定年が叫ばれる今、がん治療と仕事等との両立

は、すべての国民、ひいてはわが国の発展にとって非常に重要なことです。産業医や両立支援コーディネーターの講習会などの頻度は増えていますが、肝心の医療機関やがん治療医側の対応や大学病院での教育・研修が不十分でした。北海道大学

10 公益財団法人(内閣府所管) 札幌がんセミナー

## 2 がんの治療

病院では、産業医科大学病院の見学や札幌医師会・北海道労働保健管理協会のご協力等を経て、今年4月1日に、腫瘍センター内に私を含む医師数名と両立支援コーディネーターの研修を受講した看護師1名・社会福祉士3名とで両立支援チームを立ち上げました。主治医や会社の方からの情報をもとに、治療中に仕事をする上で配慮してほしいことを会社の方に伝えたり、主治医に仕事との両立を配慮して治療計画を立てるための情報提供やアドバイスをできる体制を整えました。

この過程で、①がん治療の優劣を判断する指標として従来の生存率・安全性・生活の質(QOL)

等に加えて、経済毒性(FT)が現在の大きな課題であること、②その解決には、療養と就労の両立に関して、臨床医学だけではなく、がん生物学・薬理学・放射線生物学・社会医学の点から、科学的議論・研究が必須であること、を痛感しました。幸い、北海道大学医学



研究院の多くの教授が、そのような新たな分野の必要性に賛同してくださり、それらの教室とともに、

同じく今年4月1日から医学研究院連携研究センターに「療養・就労両立医学分野」が設立されました。同分野内で、私は、「療養・就労両立医学教室」という新しい教室を担当し、厚生労働省科研費等を使わせて頂きながら、新たな学問分野の構築に取り掛かっております。

(北海道大学大学院医学研究院連携研究センター療養・就労両立医学教室教授 白土博樹)

### 治療と仕事の両立に向けた支援

#### 対象

- ・今後のがん治療と仕事との両立に悩まれている方
- ・がん治療のために休職し、今後復職を考えている方

◆ 両立支援担当の医師・看護師・社会福祉士が、主治医や会社の方からの情報をもとに治療計画への助言や両立・復職に向けた助言を行います。

※受診科の看護師に「**両立支援希望**」とお伝え下さい。

【担当窓口】北海道大学病院 がん相談支援センター  
【直通電話】011-706-7040



表1. 両立支援外来データベース項目

項目1	項目2	項目3	項目4
患者ID	事業場名	利用可能な制度：企業情報	療養・就労両立支援指導料 算定回数
患者氏名	従業員数	健康保険の種類	相談支援加算算定回数
年齢	勤務情報記載者	高額療養費制度区分	支援後の復職の有無
性別	職業：問診票	傷病手当金受給の有無	支援開始日（初回相談時）
診療科	職務内容：問診票	家族背景	両立支援外来初回日
主治医氏名	職務内容：企業情報	相談開始の場	支援終了日（算定日）
関連診療科	勤務形態	勤務情報（文書）の有無	コーディネーター相談回数
疾患名	交代勤務	就業もしくは復職可否意見書 の有無	両立支援外来担当医氏名
がん治療の経験	通勤時間 (片道10分単位)		担当コーディネーター
現在の主な症状	通勤手段		特記